



須田っ子 第8号

学校教育目標「すすんで心や体をすこやかにする子」SA・SU・QA・DA



「見えない壁の先に！」～「校内マラソン大会」から (2019.10.3)



◆「見えない壁」、対話の母
対話(コミュニケーション)では、「スムーズ」さが大事

◆「見えない壁」、一枚の紙
ニューズ解説者、橋本五郎さんは、秋田県出身。経済的に恵まれなかった橋本少年は、ノート代わりに一枚の紙を三度使います。鉛筆で書いた上にペン、最後に赤ペン。確かに不便です。でも、しっかりと考える習慣に繋がったそうです。その体験は、お金や容姿、学力の差で「見えない壁」を作る世の中を壊す役に立つ志につながっていきます。自分をまっさらに見つめる親と教師が、「自分を信じる」力になったそうです。

ふるさとの自然や文化、歴史を大切に思う心は、「二枚の紙」に浮かび上がる「大人」の姿だそうです。

見えない壁を

校長 内山 晋

初めてのマラソン大会でスタートと共に飛び出す一年生の子供たち。最初から限界(見えない壁)を作って諦めるのではなく挑戦する姿は、どんなに輝き素晴らしいことでしょうか。

「伝える」スキル指導はこれからも勿論続けます。さらに、相手によりよく「伝える」ための、「足りない」ことを質問したり提案したりする指導も加えていきます。須田中の子供たちから、思い込みの壁を壊すことの大切さを教えてもらいました。

◆「須田三山」を極める
出来ない理由を探すより、目の前の課題が出来るための方法を生み出す努力が、「見えない壁(限界)」を壊し、子供に自信をもたせるため、「須田三山」にたわまず挑戦します。



須田小 イイね!

実りの2学期も2ヶ月が過ぎました。全校マラソン大会や文化祭といったイベントを情熱の焦点の一つとして、めあてをもち取り組むことができました。マラソン大会での「緊張した表情」と、文化祭ステージ発表での「柔らかな表情」との対比的な姿は、子供の達成感を象徴していると思います。さて、11月は「須田三山」(論理力を育てる授業)、(授業で学んだことを生かす須田dy:ふるさと・須田学習)、(健康な体と心を支える時間編集力)を進めてまいります。



10/10(木) 芋ほり体験(1・2年生)
校舎裏の「1・2年芋畑」で、甘藷(さつまいも)の収穫をしました。土の中から宝物のように掘り出される度に、歓声が沸き上がる収穫作業になりました。



多様な考えを育む読書 9月の読書しらべ

- ◆4月からの累計冊数 6736冊
- ◆9月1ヶ月の読書数 1528冊
- 一人当たりの読書数 17冊
- ◆学年年間目標読書数 1/3児童達成



10/7(月) 梨づくり見学(3年生)
収穫の時期を迎えた須田の梨畑を見学させていただきました。たわわに実った須田の梨の美味しさの秘密について学びました。



10/15(火) ゆっくり! 須田小中交流会
小さな玉を、一人一人のもつれで「繋ぐ」ゲーム。簡単そうですがゴールまでたどり着かないもどかしさ。「ゆっくり」という言葉が自然に出てきます。ゲームを通して、言葉・しぐさ等から、思いやる気持ちの素地を育てられていることが、感じられました。動画

